

肥料価格高騰対策事業 化学肥料低減計画書の書き方について

※比較的取り組みやすいものについては取組メニューをマーカーしております。

取組メニュー	取組例
ア 土壌診断による施肥設計	<p><u>土壌診断の結果に基づいた施肥を実施</u>する。</p> <p>★土壌診断の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市販の簡易キットによる土壌分析 ・民間事業者を利用した土壌診断 <p><u>施設養液栽培の場合</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・養液や廃液の成分分析または定期的な pH、EC 分析 <p>※備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土壌分析の項目は土壌診断に必要な内容としてください (pH、EC は必須)。 ・土壌診断の点数は問いませんが、強化する場合は地点数を増やしてください。
イ 生育診断による施肥設計	<p><u>生育診断の結果に基づいた施肥を実施</u>する。</p> <p>★生育診断の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生育状況の計測 ・葉色板等カラーチャートによる計測
ウ 地域の低投入型の施肥設計の導入	<p>例：JA 部会等で低減を目的とした施肥設計を取り決めて実施している場合</p> <p>※地域特認技術を選択した場合はウを選択できません。</p>
エ 堆肥の利用	<p>自給堆肥でも可能です。</p>
オ 汚泥肥料の利用 (下水汚泥等)	<p>普通肥料として販売されていますので、販売店等に問い合わせください。</p>
カ 食品残渣など国内資源の利用 (エとオ以外)	<p>例：米ぬか、かき殻石灰 等</p>
キ 有機質肥料 (指定混合肥料等を含む) の利用	<p>有機質肥料について</p> <p>：有機質原料が含まれている肥料であれば対象となります。有機質原料の含有量は問いません。</p> <p>※有機態原料の割合が低い肥料から高い肥料に変更した場合、取組の強化・拡大とみなせません。</p>
ク 緑肥作物の利用	<p>例：イタリアンライグラス等、緑肥の利用。</p>
ケ 肥料施用量の少ない品種の利用	<p><u>水稻の場合</u>：ササニシキ、コシヒカリ、みやこがねもち</p> <p>※「宮城の稲作指導指針 (平成 31 年 3 月)」で減肥が必要な品種として定めているもの。</p> <p><u>園芸の場合</u>：(いちご) にこにこベリー</p> <p>その他 相談にて対応します。</p> <p>※「同一施肥条件で多収が認められた品種」は対象になります。</p> <p>※対象品種の面積拡大は、取組の強化に該当します。</p>

取組メニュー	取組例
コ 低成分肥料 (単肥配合を含む)の利用	例：NK化成肥料 等 低成分肥料については、国 Q&A 問 4-10 のとおりで、窒素以外のリン酸及び加里成分が少ない、いわゆる L 型肥料のことです。成分含有量については問いません。 ※単肥配合は、土耕栽培、養液栽培ともに適用されます。
サ 可変施肥機の利用 (ドローンの活用等も含む)	例：施肥調整のできる田植機の利用 等
シ 局所施肥(側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥等)の利用	例：側条施肥、うね立て同時施肥、灌注施肥 等 施設養液栽培の場合 養液栽培は制限された根圏域に施肥するため、局所施肥に該当します。 養液栽培例：水耕 (DFT、NFT 等)、固形培地耕 (ロックウール、ヤシガラ等) 等
ス 育苗箱(ポット苗)施肥の利用	
セ 化学肥料の使用量及びコスト削減の観点からの施肥量・肥料銘柄の見直し	※ア～ス以外で該当するもの。 「化学肥料の使用量」(化学合成成分量の施用量)の低減かつ「コストの節減」の両方を満たすものが該当します。 例：肥料 A (窒素成分 5%) から安い肥料 B (窒素成分 8%) に切り替える場合、肥料自体の窒素成分量は増えるが、肥料自体の使用量を減らし、施用する窒素成分量は見直し前以下に抑える。
ソ 地域特認技術	
ソ-1 乾土効果による基肥窒素減肥技術	水稲のみ 乾土効果は、春期の水田土壌の乾燥程度によって土壌窒素発現量を予測し、基肥窒素を減肥する技術のことです。 令和 5 年の乾土効果については、令和 5 年 3 月及び 4 月の気象予報の積算降水量から乾土効果の影響を推定していますので、県 HP の掲載資料を参考に施肥設計を行ってください。
ソ-2 稲わら施用によるカリ・リン酸減肥技術	水稲のみ 水稲収穫後に稲わらをすきこむことで、カリ及びリン酸の施用量を減肥します。
ソ-3 土壌図を活用した施肥量改善技術	水稲のみ 農研機構が公開している「日本土壌インベントリー」等の土壌図で、土壌の種類から水稲施肥基準を確認し、自身の施肥量を見直す。 土壌インベントリーHP https://soil-inventory.rad.naro.go.jp/figure.html ※PC 用ページのためスマホでは見えにくいです。

